

■新年ごあいさつ■



理事長 川岸 卓哉

あけましておめでとうございます。

昨年は、台風15号、19号が日本列島に甚大な被害を及ぼしました。ここ川崎でも浸水被害があり、被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。今後も地球温暖化による自然災害の激甚化は避けられないことを実感させられ、あらためて、クリーンエネルギーである再生可能エネルギーの普及の意義を再認識した方も多かったと思います。

他方、日本におけるエネルギー転換の歩みは遅いばかりか、「今だけ、金だけ、自分だけ」の原発推進勢力によって原発再稼働が1つまた1つと決定し、まさに時代に逆行しています。この流れは原発問題だけにとどまらず、政府の民主主義と人権軽視の姿勢は目に余るものでありながら、マスコミによる健全な権力批判は乏しく、ヘイトスピーチとフェイクニュースの氾濫する社会において、民主主義自体が機能不全の危機に瀕しています。

このような中、私たちの活動は昨年 **5周年を迎えました。**

当NPO法人の柱である発電所事業は、3号機まで完成・稼働し、本年は4号機の建設も予定しています。脱原発を願うみなさまの想いで建設された発電所の発電によって、徐々に溜まってきた売電利益を、どのように社会に活用し有効に還元していくかの議論の必要性が現実化してきました。

イベント面では、2号機で発電した電気を使ったお祭り「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」も6年目を迎えます。大型イベントの運営には苦労が多いなか、毎年様々なメンバーの想いを繋ぎながら開催が継続できています。再生可能エネルギーの意義を楽しく学ぶ場として、私たちの活動と、地域で活動する諸団体や、無関心層・関心があるけど行動ができていない層の市民を繋ぐ場として、より有意義なものとしていければと考えています。毎年恒例の視察旅行も「楽しくて有意義」と好評であり、本年も実施予定です。ぜひご参加ください。

政策面では、川崎地域エネルギー市民協議会をプラットフォームに、「再生可能エネルギー促進条例制定」の署名活動は1万筆を達成しました。今後あらためて活動の展望を検討する次のフェーズにきています。また、川崎地域エネルギー市民協議会が設立当初から川崎市に働きかけてきた「市有施設の屋根貸しによる太陽光発電事業」の公募が実現したことは、有意義な実績といえます。

今年開催する5周年イベントでは、あらためて原点に立ち返り、これまでの活動を総括するとともに、これからの道を展望し、川崎における「脱原発の旗」を立て続けるべく、みなさまと共に、一歩ずつ歩みを進めていく所存です。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



■「再エネ促進条例制定」署名が1万筆を超えました

署名にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

報告：再エネ促進条例制定を呼びかけた3年間

【1st 準備の時期】

2014年7月の当NPO法人設立当初に発足した政策検討チームでは、福島原発事故後も国のエネルギー基本政策が転換をみせない中、全国各地の先進的な電力政策改革について事例研究に取り組み、再生可能エネルギー普及を官民共同で進めていくための条例が必要ではないかとのアイデアに至りました。全国約20のエネルギー関連条例について細かに研究し、専門家の意見を得て「川崎市再エネ促進条例（仮称・市民案）」を作成しました。

【2nd 展開の時期】

2017年11月、再エネ条例プロジェクトチームを発足させ、広く市民の理解・賛同を得ていくための活動に乗り出しました。かながわ生き生き市民基金の助成プログラムにエントリーし、4か月間のファウンディング活動を通じてたくさんの方々にアピール、条例制定を求める署名活動を開始しました（2019年12月末現在署名数：10,210筆）。2018年にはかわさき市民公益活動助成団体に指定され、1年をかけて、市内各所で映画「日本と再生」ダイジェスト版の上映会と川崎のエネルギー政策について考えるワークショップを開催し、幅広い年齢層の方々と意見交換ができました（参加者：124人）。川崎市議会議員の方々とも意見交換の場を設けました。

【3rd まとめと今後】

再エネ条例制定運動は2年間の活動を経て現在、川崎地域エネルギー市民協議会の取り組みとして継続しています。これまで行ってきた数々の取り組みの成果をまとめ、賛同協力者にお伝えするとともに、オンラインで資料閲覧できるよう準備をしていきます。

今後は、条例案のブラッシュアップや、市議会議員の方々へのはたらきかけを継続していきます。皆様のご参加、ご意見をお待ちしています。

政策検討チーム 鳥海 幸恵



■3/8（日）、「第9回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」 開催します。

2020年3月8日（日）、中原平和公園で「第9回 原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会&デモ」を開催いたします。

福島第一原発事故を契機に、毎年3月に川崎市で1000人規模の集会が開催されるようになり、今年で9年目となります。

いまだに避難生活をされている方が4万人を超えており、福島に戻った方も低線量被ばくによる健康被害が心配されています。福島第一原発の汚染水をどうするのか、溶け落ちた核燃料をどうやって取り出すのか等、課題は山積みであり、福島原発事故は終わっていません。今、一番怖いことは、福島原発事故を忘れて無関心になったりする人が増えていくことです。それは、原発の再稼働を進める結果となり、再び原発事故が起きてしまう可能性があります。残念ながら日本には、市民の命や健康より目の前のお金儲けを優先する原発推進勢力があります。その暴走を止めることができるのは、私たち1人ひとりの声と行動です。ぜひ、集会とデモにご参加ください。 ※今年はデモ行進のコースを短くしました。

今年のメイン集会では、東芝で原子カプラーの設計の仕事をしていた経験から原発の危険性を訴えている後藤政志さん、首都圏の脅威となっている東海第二原発の再稼働に反対して活動されている「脱原発ネットワーク茨城」共同代表の小川仙月さん、「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟の原告団事務局長の服部浩幸さんがお話します。

3月8日は、10:30より、NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所をはじめ、市内の市民団体がたくさんのブースを出店し、美味しい食べ物の販売もあります。12:00より文化行事、13:00よりメイン集会が開催されます。

原発ゼロへのカウントダウン in かわさき実行委員会
事務局長 鴨下 元 (当 NPO 法人理事)



■活動紹介■ No.10

2019年11月4-5日「上田市の染屋浄水場見学」から学んだこと
生田浄水場は生物浄化法の浄水場として復活させよう!



かわさきの安全でおいしい水道水を守る会 町井 弘明 (当NPO法人理事)

11月4日、田中哲男さん運転のマイクロバスで、生物浄化法を学びに上田市へ出かけました(大人16名、子ども5名総勢21名)。田中さん一家、加藤伸子さん、川岸聡美さんも参加しました。上田の「おいしい水を広める市民の会」と交流し、翌日、生物浄化法で水を作っている染屋浄水場を、中本信忠さん*の案内でじっくり見学しました。*信州大学名誉教授、プランクトン研究が専門。

①水をつくる二つの方法「急速濾過法」と「緩速濾過(生物浄化)法」

ひとつは「急ぐ速度」と書く「急速(きゅうそく)ろ過」。水中の小さな濁りや細菌類などを「薬品:濁りを除く凝集沈殿剤のポリ塩化アルミニウム(PAC),PACの効き目を上げる硫酸、吸着で汚染物を除く活性炭、そして消毒の塩素化合物」によって沈殿させ、水をきれいにする方法。アメリカで一般的になり、業界を潤すということで推奨され、急速に日本全国に広まりました。

二つ目は「ゆるやかな速度」と書く「緩速(かんそく)ろ過」。200年前イギリスのロンドンで開発されました。「微生物」の生息する砂の層に水をゆっくり通すことにより、濁りを取り除くだけでなく、感染症のリスクを下げる効果というのも認められたことから世界各地にこの技術が広がっていきました。薬は必要なし、電気で動かす必要もない、生態系という自然の仕組みの賢い活用法です。



中本信忠氏

②美味しい水の主役は微生物・藻類

水をろ過する砂の表面に棲んでいる無数のプランクトン。主役はケイ藻で、水道水に不要なものを除去します。光によって酸素を放出し、その浮力でゴミと共に浮かび上がります。この繰り返しにより美味しい水が作られ、濁りが取れます(濁度0,000)。

③生田浄水場を「生物浄化法」の浄水場として復活させよう

生田浄水場は総面積16万5175㎡(サッカー場やふれあい広場になる有効活用面積は4万8000㎡)あります。染屋浄水場ではろ過池総面積1万140㎡で5万トンの飲み水を作っています。10万トンなら2万㎡あればいいのです。今回の有効活用面積は約5万㎡ですから、十分な広さがあります。

「映画会と交流の広場」 DVD「どうする日本の水道41分」を見て、日本と川崎の水道を語ろう
1月28日(火)13時半~ 多摩市民館4階 第6会議室

【編集後記】

昨年10月12日の台風による内水氾濫で私が住んでいる高津区でも深刻な被害を受け、元の生活にもどれない方々がいるのです。これも地球温暖化による気候変動のせいなのでしょう。いいかげん再生可能エネルギーにシフトするしかないと感じてください。化石大賞なんて恥ずかしくすぎます! (加藤伸子)

でん太通信は、ほぼ隔月15日発行です。

■NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

